

あきらめない。揺れたら逃げる。黒潮町の南海地震対策

内閣府公表 津波高・浸水域等（第2次報告）

および被害想定（第1次報告）について

【お問い合わせ】

本庁 情報防災課

南海地震対策係

☎43-2188（直通）



▼津波高・浸水域等（第2次報告）

平成24年8月29日に、南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等が、国（内閣府）から公表されました。今回の公表は、本年3月31日に公表された震度分布・津波高の第1次報告（50mメッシュ）を、10mメッシュ単位の微細な地形変化を反映したデータを用いて、震度分布、海岸部での津波高や到達時間、陸域に遡上した津波の浸水域・浸水深を推計したものです。その結果、黒潮町では「最大震度7」「海岸での最大津波高34m」と、第1次報告（50mメッシュ）と同じく厳しい数字となっています。（左ページ表1：図1参照。）

この公表の最大クラスの地震・津波の発生頻度は極めて低いものであり、南海トラフ沿いにおいて次に発生する地震・津波を想定したものではありません。最大クラスの津波高や到達時間の予測が厳しいからとい

つて、避難を初めから諦めてはいけません。とにかく「揺れたら逃げる。より早く、より安全なところへ、一人ひとりが一生懸命逃げる」ことが重要です。

※50mメッシュとは、50m×50mのマスの目の地形データを単位に推計したものです。

▼被害想定（第1次報告）

また、今回は、被害想定（第1次報告）についても公表されました。その結果、高知県では、被害が最大となるケースで全壊・地震火災による焼失建物23万9000棟、死者4万9000人という非常に厳しい推計が出ました。（下記表2参照。）しかし、避難を迅速に行うことや、住宅耐震化などの防災対策を行うことで、被害を大幅に低減することができると推計もされています。（左ページ図2参照。）黒潮町では、住民の命を守ることを第一に引き続き防災対策を行っていきます。

表2 高知県内の被害推計結果 ※四捨五入の関係で、合計が合わない場合があります。

●建物被害

（棟）

地震動	津波	シーン	揺れ	液状化	津波	急傾斜地崩壊	火災	合計
基本ケース	ケース④	冬・深夜	104,000	1,400	52,000	1,100	7,100	166,000
		夏・昼					8,800	167,000
		冬・夕					19,000	178,000
陸側ケース	ケース④	冬・深夜	167,000	1,400	49,000	1,100	9,600	228,000
		夏・昼					12,000	230,000
		冬・夕					22,000	239,000

●人的被害

（人）

地震動	津波	シーン	建物倒壊	うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物	津波	急傾斜地崩壊	火災	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物	合計
基本ケース	ケース④	冬・深夜	6,600	400	35,000	100	600	—	42,000
		夏・昼	2,800	200	26,000	40	300	10	29,000
		冬・夕	4,700	200	26,000	70	1,100	10	32,000
陸側ケース	ケース④	冬・深夜	10,000	600	37,000	80	1,600	—	49,000
		夏・昼	4,400	300	29,000	30	900	10	34,000
		冬・夕	7,400	400	30,000	60	2,800	20	40,000

被害想定の設定と項目について

地震動…第2次報告で検討された地震動5ケースのうち、「基本ケース」と被害が最大と想定される「陸側ケース」で推計。

津波…第2次報告で検討された津波11ケースのうち、東海、近畿、四国、九州地方のそれぞれで大きな被害が想定される4ケースについて推計。

上表では、このうちケース④（四国地方が大きく被災するケース）を掲載。

シーン…想定される被害が異なる3つのシーン（季節・時刻）にて推計。

○冬・深夜：多くの方が自宅で就寝中の時間帯

○夏・昼：木造建築物内の滞留人口が少ない時間帯

○冬・夕：火気使用が最も多い時間帯

全地域の避難所・避難路の

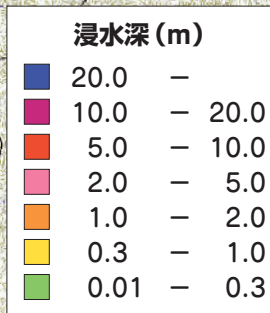
見直しが終了しました

南海地震対策に特化した地域担当制について、区長（地域住民）、自主防災組織、消防分団、地域担当職員による避難所・避難路などの見直し作業が全地域において終了しました。関係者の皆さんには、お忙しい中、多大な時間と労力を費やしていただきまして、深くお礼申し上げます。

皆さんからお寄せいただいたご意見・ご要望については、現在、担当課にて集約作業を行っており、緊急性の高い箇所から計画的に測量・設計、工事などの事業を進めていきたいと考えています。

今後も避難場所・避難路の測量立入や用地の提供、工事、防災訓練などにご協力をお願いします。

図1 津波の浸水分布
【ケース⑤「四国沖～九州沖」にすべり域を設定】



黒潮町

図2 防災対策による
人的被害低減イメージ

（高知県公表資料による）
地震動：基本ケース、津波：ケース④、シーン：冬・深夜の条件で推計。

約42,000人



約13,800人
【避難開始迅速化】



約12,200人
【+津波避難ビル有効活用】



約6,600人
【+住宅耐震化率100%】



さらなる対策で
限りなくゼロに！

表1 黒潮町津波の推計結果

地震動		ケース①～⑪の最大値
海岸部津波高	最高津波高	34m (ケース④)
	平均津波高	19m (ケース④・⑤)
海岸部津波到達時間	津波高1m	8分 (ケース②)
	津波高3m	16分 (ケース④)
	津波高10m	30分 (ケース⑤)
	津波高20m	32分 (ケース④・⑤)
津波浸水面積	30cm以上	1,190ha (ケース⑤)
	1m以上	1,150ha (ケース⑤)
	10cm以上	400ha (ケース⑤)

ケース②…「紀伊半島沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定
ケース④…「四国沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定
ケース⑤…「四国沖～九州沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定

黒潮町佐賀・白浜・灘・伊田地区に『緊急避難路』として利用できる道路点検用通路が完成しました！

中村河川国道事務所では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による津波被害を教訓に、来るべき東南海・南海地震に備え、津波など災害発生時に道路利用者や沿道住民の皆さんが高台への『緊急避難路』としても利用可能な道路点検用通路を整備しました。



通常は点検用通路ですが、津波発生時（緊急時）には蹴破って高台に避難することができます。誘導灯はスイッチ式になっていますので、非常時にはスイッチを入れて避難してください。



階段部には手すりを設け、避難先となるスペース部分には転落防止柵を設置しました。



○ 完成済

□ 現在施工中
(9月末現在)

至高知市
文
土佐佐賀駅
佐賀（横浜トンネル高知側）
横浜トンネル
佐賀公園駅

◆ 特徴その1【誘導灯】

夜間における災害時の避難誘導灯として、LED誘導灯を設置しました。内蔵バッテリーにより停電に関係なく効果を発揮します。

◆ 特徴その2【蹴破り門扉】

門扉は、津波発生時（緊急時）には蹴破って避難することができます。



※東日本大震災では、小学校脇の高台への避難階段で多くの児童の命が救われました。